

平成27年度 研究・調査企画会議 事前・中間評価部会（第7回）
議事概要

1 日時：平成28年1月27日（水）10：00～17：05

2 場所：食品安全委員会中会議室

3 出席者（8名）五十音順

圓藤 陽子（（独）労働者健康福祉機構関西労災病院産業中毒センター長）

尾崎 博（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

鬼武 一夫（日本生活協同組合連合会品質保証本部安全政策推進部部長）

川村 孝（京都大学環境安全保健機構副機構長兼健康科学センター長）

佐藤 洋（食品安全委員会 委員長）

山添 康（食品安全委員会 委員長代理）

◎熊谷 進（食品安全委員会 委員）

吉田 緑（食品安全委員会 委員）

（◎：座長）

その他、事務局から姫田事務局長ほか10名が出席

4 議事概要

（1）平成27年度食品健康影響評価技術研究課題（課題番号：1301、1501、1503、1504、1505、1506、1507）の中間評価に係るヒアリング審査

○ 次年度への継続を予定している以下の7課題各々の主任研究者に対してヒアリング審査を実施し、研究継続の要否、研究計画の見直し等について審議を行った。

○ 今後、事務局において本日の審査結果を取りまとめ、次回の事前・中間評価部会で審議し、中間評価結果（案）を決定することとなった。

<継続予定課題>

1301：ヒト型遺伝子改変マウスを用いた非定型BSEの人に対する感染リスクの定量的評価（松浦裕一（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所））

1501：農薬の毒性評価における「毒性プロファイル」と「毒性発現量」の種差を考慮した毒性試験の新たな段階的評価手法の提言—イヌ慢性毒性試験とマウス発がん性試験の必要性について—（小野敦（国立医薬品食品衛生研究所））

1503：食事由来アクリルアミドばく露量推定方法の開発と妥当性の検討および大規模コホート研究に基づく発がんリスクとの関連に関する研究（祖父

江友孝（大阪大学）

- 1504：家畜とヒトとの間における薬剤耐性菌の循環に関する分子疫学および時空間比較ゲノム解析（荒川宜親（名古屋大学））
- 1505：食品に対する乳児期のアレルギー性反応獲得メカニズムと発症リスク評価（木戸博（徳島大学））
- 1506：食品ごとの「IgE 抗体の作らせやすさ」を測定する系の樹立に関する研究（斎藤博久（国立研究開発法人国立成育医療研究センター））
- 1507：食品由来のアクリルアミド摂取量の推定に関する研究（河原純子（国立研究開発法人国立環境研究所））

（2）平成27年度終了予定食品健康影響評価技術研究課題（課題番号：1402、1403、1404、1406、1407、1502、1508）の進捗状況の報告

○ 事務局から、本年度終了予定の以下の7課題について、平成27年12月末現在の研究の進捗状況を報告した。

<平成27年度終了予定研究課題>

- 1402：レチノイン酸の濃度変化を引き起して催奇形性を示す化学物質のスクリーニング法の開発と催奇形性発症の分子機構の解明（永田清（東北薬科大学））
- 1403：熱帯性魚類食中毒シガテラのリスク評価のための研究（大城直雅（国立医薬品食品衛生研究所））
- 1404：食品摂取により発症する新規アレルギー／アレルギー様反応に関する調査研究（柘植郁哉（藤田保健衛生大学））
- 1406：低水分含量食品中における食中毒細菌（サルモネラ、腸管出血性大腸菌）の菌数変動および生存確率予測モデルの開発（小関成樹（北海道大学））
- 1407：食品中ヒ素の代謝物ジメチルモノチオアルシン酸の発がん性に関する研究（鰐淵英機（大阪市立大学））
- 1502：栄養成分・加工助剤に関するリスク評価方法の確立に関する研究（梅村隆志（国立医薬品食品衛生研究所））
- 1508：香料の摂取量に関する評価方法の確立に関する研究（佐藤恭子（国立医薬品食品衛生研究所））

（3）平成28年度食品安全確保総合調査課題（案）について

- 前々回の事前・中間評価部会（第5回）で実施が了承された平成28年度食品安全確保総合調査課題（5課題）について、事務局から仕様書（案）等を提示し、審議を行った。
- その結果、仕様書（案）の内容の修正が必要とされた課題については、事務局において一部修文した上で、次回の事前・中間評価部会で5課題について再度審議することとなった。

(注：本会議は個別具体的な研究者や研究課題名及び研究の内容に言及して議論が行われることから、非公開で行った。このため、本会議の議事概要についても、それらが特定されない形で公表するものである。)